

## P-19 アラビア語チュニス方言の語りにおける等位接続詞の機能

熊切 拓

cyberbbn@gmail.com

### 要旨

アラビア語チュニス方言の等位接続詞 w- 《～と、そして》の意味は、先行研究によればおおまかに「時間的な継起」と「追加」とまとめることができる。本発表では、この w- について① w- と結合する動詞文の語順（とくに w-SV と w-V）と② 出現環境という 2 つの観点から、語りにおいて持つ機能について検討を行った。まず、w- が複数の行為をひとまとまりの行為として述べる機能をもつと分析し、「時間的な継起」は本質的な機能ではないことを指摘した。また、w-SV には場面の区切りとなる機能、w-V には締めくくりの行為を述べる機能があり、w- が語りを分節するという点で語りの構造化にも関わる要素であることを示した。

### 1. はじめに

本発表は、アラビア語チュニス方言の等位接続詞 w- 《～と、そして》が語りにおいて持つ機能について、物語テキストを対象に分析・記述を行う。

w- は名詞、形容詞、動詞、文などほとんどの要素と結合することができる。標準アラビア語の wa- に対応し、標準アラビア語・諸方言においてもっとも頻出する接続詞である。

本発表では、動詞文（動詞が述語となった文）を接続する w- を取り上げ、① w- と結合する動詞文の語順と② 出現環境という 2 つの観点から、w- が語りにおいて果たしているいくつかの機能を記述する。

### 2. アラビア語チュニス方言と資料

アラビア語チュニス方言（以下チュニス方言）は、現代アラビア語諸方言のひとつであり、チュニジア共和国の首都チュニスを中心にコイナーとして広く用いられている言語である（Gibson 2009）。32 種の子音（b, b', m, m', f, θ, ð, ð', t, t', d, n, s, s', z, z', r, r', l, l', ʒ, k, g, x, ɣ, q, h, ʕ, h, w, j/、IPAに準ずる）と、長短合わせて 6 種の母音（i, a, u, i:, a:, u:/）を持つ。名詞のクラスは男性（M）・女性（F）に分かれ、単数（SG）と複数（PL）の区別がある。動詞には完了形（PERF）、未完了形（IMPF）、命令形（IMPR）の 3 つの活用系列があり、人称・数・性によって活用する。

次に、本発表で用いる略号をまとめる。1/2/3：1 人称、2 人称、3 人称、AP：能動分詞、DEF：定冠詞、F：女性、IMPF：未完了形、M：男性、PERF：完了形、PL：複数、PP：受動分詞、PROG：継続アスペクト標識、-：形態素境界。

本発表で扱う w- は、環境によって u-, wi- となるが、すべて w- と表記する。

本発表の資料として用いたのは、『アル＝アルウィー物語集』（Al-ʕArwi, ʕAbd-al-ʕazi:z (1989) hika:ja:t al-ʕArwi: Vol. I-IV. 2nd edition, Tunis: Al-Da:r Al-Tu:nisi:ja li-l-Naʕr）である。本書は、ʕAbd-al-ʕazi:z Al-ʕArwi: がラジオでチュニス方言で語った昔話、人情話、逸話、伝説などをまとめたものである。111 に及ぶ物語のうち、本発表では比較的長めの昔話である以下の 3 話から例を集めた（原題、その訳、ローマ数字で巻数、ページを記す）。

- |                            |                  |              |
|----------------------------|------------------|--------------|
| ① “mnajjra ja:-mnajjra”    | 「ランプよランプ」        | I, 9-66.     |
| ② “waʕd alʕa:h”            | 「神の約束」           | II, 217-235. |
| ③ “xa.tim hibbi:k libbi:k” | 「ヒッピーク・リッピークの指輪」 | II, 241-261. |

物語は、一般に登場人物の行動などを語る「地の文」と登場人物の「会話」から構成される。「地の文」と「会話」ではテキストの性質が異なるため、本発表においては、「地の文」からのみ w- の用例を集めた（同書に付された句読点はしばしば一貫性を欠くため、資料としては採用しない）。また、従属節を接続する w- は、主節の w- と機能が異なるためこれも扱わない。

なお、引用にさいしては、訳文末の ( ) 内に、ローマ数字で巻番号、アラビア数字でページ番号 (p.) と行番号 (l.) を記した。なお、本発表は科研費 (19K13183、22K00548) の研究成果の一部である。

### 3. 先行研究と課題

標準アラビア語の wa- の意味については、Holes (1995: 217) は、その基本義は「静的情景や事物の叙述における追加」と「行為の叙述における継起」であり、さらに行為の同時性なども表しうるとする。Ennaji (2009: 190) もまた、wa- とモロッコ方言の u- の基本的な意味を「追加」としている。

チュニス方言の w- においても、大きく変わるものではない。Singer (1984: 676) には、次の4つの用法が挙げられている (表記は本発表のものに改め、グロスを付した。w- を太字にし、そのグロスを W- とする)。

(1) 同伴	a:na: <b>w-s<sup>h</sup>ahb-i:</b>	「私と私の友人」
	私 W-友人-私の	
追加	xamsa <b>w-xamsi:n</b>	「5 5」
	5 W-50	
時間的な継起	nimji: <b>w-nr<sup>h</sup>awwah</b>	「私は行き、そして帰ってくる」
	行く IMPF.1SG W-帰る IMPF.1SGW	
並列	jimji: <b>w-jibki:</b>	「彼は行き、そして泣く」
	行く IMPF.3SG.M W-泣く IMPF.3SG.M	

(Singer 1984: 676 の記述をもとに整理した。)

(1) の「並列」は、例文の文脈がわからないため、「時間的な継起」との違いが明確ではない。本発表ではひとまず、この「並列」を、ある事態に別の事態が追加されたものとして捉え、標準アラビア語の先行研究にならって「追加」とみなすことにする。したがって、w- は「時間的な継起」と時間的関係を考慮しない「追加」を表すとまとめられる。

さらに Singer の研究では、w- の現れる環境については言及されていない。それゆえ、語りにおいて現れる w- の環境を検討することによって、より詳細な意味の記述ができる可能性がある。本発表では、物語の地の文における動詞文と w- との結合を取り上げ、その環境を踏まえて意味の記述を行う。

物語の地の文において、w- はさまざまな環境で現れうるが、本発表では、2つの環境に着目する。

ひとつは、語順である。チュニス方言の動詞文は (他のアラビア語変種と同じく)、動詞 (V) ・主語 (S) の順になる VS 構文、主語・動詞の順になる SV 構文、主語が省略された V 構文の3種がある。VS 構文はこの言語の動詞文の基本語順である。SV 構文は、主語が主題化された文である。以下の例では主語と動詞を太字にした。

(2)a. VS 構文	<b>fi-θ-θni:ja</b> <b>qa:lt-ilha:</b> <b>l-aʕru:sa</b>
	中に-DEF-道 言う PERF.3SG.F-彼女に DEF-花嫁
	「道すがら、花嫁が彼女に言った」 (I, p.20, l.3)
b. SV 構文	<b>si-t-ta:zir</b> <b>l-akhal</b> <b>qa:l-lu:</b>
	敬称-DEF-商人      DEF-黒い 言う PERF.3SG.M-彼に
	「黒い商人殿は彼に言った」 (I, p.115, l.9)
c. V 構文	<b>qa:l-lu:</b> <b>tilʕab-ji:</b> <b>ʃ-ʃitʕranʒ</b>
	言う PERF.3SG.M-彼に 遊ぶ IMPF.2SG-IRR      DEF-チェス
	「彼 (黒い商人) は彼に言った。『あなたはチェスはやりますか?』」 (I, p.114, l.15)

この3種の構文と、w- との関係性を調べると、「mnajjra ja:mnajjra」では、w- に動詞文が後続する例が274例あり、そのうち、w-V型が196例と最も多く、次にw-SV型が60例、w-VS型が18例であった。本発表

では、このうち、w-V型、w-SV型をとりあげて検討する（もっとも少ないw-VS型は除く）。

もうひとつの環境は、一連の語りにおいて w- と動詞文の結合がどのように、そしてどの位置に現れるかである。w-V型を考える場合、少なくとも次の3つのパターンがありうる。

- (3) a. V w-V (w-V w-V ...)  
 b. V V (V ...) w-V  
 c. V V (V ...)

(3a) は、V の後に w-V が反復する場合である。(3b) は、接続詞のない (asyndetic) な V の連続の最後に w-V が現れる場合である。(3c) は w-V が現れず、V が接続詞なく続く場合である。

(3a) は時間的な継起を表しうが、そのいっぽう、接続詞のない (3c) も同様に (4) のように時間的継起を表す（以下の諸例では議論に関係のある w- を太字にした）。

- (4) **rō'a:t**                      b-ha:ða-f-jar<sup>t</sup>                      rawwhit                      b-ha:k-il-flu:s                      **qas's'it**  
 満足する PERF.3SG.F                      で-その-DEF-条件                      帰る PERF.3SG.F                      で-あの-DEF-お金                      切る PERF.3SG.F  
**fas's'lit**                      **zahh'it**  
 寸法を図る PERF.3SG.F                      結婚式の準備をする PERF.3SG.F

「彼女はその条件に満足した。彼女はそのお金を持って帰った。彼女は（布を）裁った。彼女は寸法を図った。彼女は結婚式の支度をした」 (I, p.11, 14)

そこで、同じ時間的継起でも (3a) と (3c) とではどのような点で異なるのかが問題となる。

また、(5) はモロッコ方言の (3a) の例であるが、(u-) (=w-) により同時に (3b) であることも示されている。しかし、その意味の違いについては言及されていない（いっぽう、マルタ語では、(3b) のほうが普通だとされている [Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 78]）。

- (5) **faq**                      aḥmed                      f ṣ-ṣbah                      (u-)g'sel                      wajh-u                      (u-)f'ar                      u-mša  
 woke.3ms                      Ahmed                      in the-morning                      and-washed.3ms                      face-his                      and-had.breakfast.3ms                      and-went.3ms  
 l xdma  
 to work  
 'Ahmed woke up, washed his face, had his breakfast, and went to work'                      (Ennaji 2009: 190)

しかしながら、本発表では (3a) と (3b) には機能の違いがあることを指摘する。

本節をまとめると、本発表では先行研究では触れられていない ① w- に続く動詞文の語順、② w- と動詞文の結合の出現環境に着目することで、より詳細な w- の意味を試みる、ということになる。

#### 4. w-SV 型の機能

w-SV 型は大きく 2 つに分けることができる。ひとつは、構文的なものである。非常に多くみられる（“mnajira ja-mnajira” では 60 例のうち半数）のが、SV w-SV (w-SV...) というように、w- によって 2 つ以上の SV が接続される構文である。

- (6) **hu:wa**                      **jqu:l**                      fi:-ha:k-il-kla:m                      **w-if'ut'fa:r**                      **jhað'ð'ru:**  
 彼                      言う IMPF.3SG.M                      PROG-その-DEF-言葉                      W-DEF-処刑人 PL                      準備する IMPF.3PL  
 fi-l-hba  
 PROG-DEF-ロープ

「彼がその言葉を言うや、処刑人たちはロープ (=絞首刑) の準備にかかる (lit. 彼がその言葉を言っている、そして、処刑人たちはロープの準備をしている)」 (II, p.253, 1.7)

この構文は、事態の対立を表したり、状況や事物を描写したり、事態の時間的近接性を表したりする機能を持つ（詳しくは熊切 2019 を参照されたい）。また、時間を表す名詞の後に SV が続いて「～の間ずっと～する」という意を表す構文もしばしばみられる（なお、チュニス方言に近いタクルーナ方言を扱う

Marçais and Guïga [1958-1961: 4237-4240] では、この構文と SV w-SV とが同じものとみなされ、さまざまな例が記載されている)。

(7) li:l w-nha:r w-hu:ma: jixdmu:  
夜 W-昼 W-彼ら 働く IMPF.3PL

「夜と昼のあいだずっと、彼女たちは働く (lit. 夜と昼、そして彼女たちは働く)」 (II, p.222, 1.5)

これら構文的なものとは異なる w-SV の用法が、場面の区切りとなる w-SV である。(8) では、最後の w-SV によって場面が締めくくられ、その次の文からは新しい場面が始まっている (同様な例に関しては (9) も参照されたい)。

(8) fa:h l-li:l xlatf l-afru:s jalqa: t'-fa:wla  
落ちる PERF.3SG.M DEF-夜 来る PERF.3SG.M DEF-花婿 見つける IMPF.3SG.M DEF-食卓  
mans'u:ba w-l-misba:h jifsal hu:wa qfad jifsa:ffa:  
置く PP W-DEF-ランプ 灯る IMPF.3SG.M 彼 座る PERF.3SG.M 夕食を食べる IMPF.3SG.M  
w-hi:ja zibdit id-darbu:ka w-bda:t t'jargaŋ fi:-ja:-li:l  
W-彼女 出す PERF.3SG.F DEF-太鼓 W-始める PERF.3SG.F 高く歌う IMPF.3SG.F 中に-よ-夜  
yanna:t l-ŋi:n iz-zarga: yanna:t ŋazza ja:-ŋazza yanna:t xulxa:l bu:-raŋli:n  
歌う PERF.3SG.F (歌の名) 歌う PERF.3SG.F (歌の名) 歌う PERF.3SG.F (歌の名)  
yanna:t xurs'-it'-fa:rbi:ga da:rit ŋli:-hum il-kull w-si-l-ŋru:s  
歌う PERF.3SG.F (歌の名) 回る PERF.3SG.F について-彼の DEF-すべて W-殿-DEF-花婿  
jifsa:ffa: w-ŋa:mil kif jibda: ja:si:d-i: ...  
夕食を食べる IMPF.3SG.M W-する AP 楽しみ さて (話題転換)

「夜になった。花婿がやってきた。彼は食卓が置かれ、ランプが灯っているのを見る。彼が座って夕食を食べると、彼女が太鼓を出して「夜よ」と高く歌い始めた (SV w-SV w-V、次節参照)。彼女は“l-ŋi:n iz-zarga:”を歌った。彼女は“ŋazza ja:-ŋazza”を歌った。彼女は“xulxa:l bu:-raŋli:n”を歌った。彼女は“xurs'-it'-fa:rbi:ga”を歌った。彼女は彼のまわりをぐるりとまわった。そして、花婿殿は夕食を食べ、楽しんだのだった (lit. そして、花婿殿は夕食を食べ、楽しむ)。(語りが中断されたのち) さて (前回、話したのは……)」 (I, p.14, 1.10) (jibda: ja:si:d-i: は談話標識。詳しくは熊切 2020: 163 を参照されたい)

## 5. w-V 型の機能

w-V 型はもっとも頻出するパターンであり、恣意的に見えることも多い。ここでは、その機能が比較的はっきりしているものを取り上げる。

まず、w-V 型は、(3a) の V w-V (w-V w-V ...) のように現れた場合、複数の行為を、何らかの共通性によって関連するひとつの事態として述べる機能を持っている。ここで、以下の長い例を検討する。自然な日本語訳に加えて、逐語的な訳も ( ) 内に記した。逐語訳では W- は訳さずにそのまま使い、動詞活用に含まれる主語は [ ] 内に示した。

(9) tixdim hi:ja w-i:ja:-hum fi-s'-s'u:f jqardfu: w-jayzlu:  
働く IMPF.3SG.F 彼女 W-と-彼女たち で-DEF-羊毛 梳く IMPF.3PL W-紡ぐ IMPF.3PL  
w-txarri:z t'-fuŋma w-l-qja:m timfi tbi:ŋ-hum  
W-作り出す IMPF.3SG.F DEF-太糸 W-DEF-細糸 行く IMPF.3SG.F 売る IMPF.3SG.F-それらを  
fi-s-su:q taqð'i: li-l-ŋja: w-tjiri: s'-s'u:f jishru:  
で-DEF-市場 買い物する IMPF.3SG.F に-DEF-夕食 W-買う IMPF.3SG.F DEF-羊毛 夜過ごす IMPF.PL  
ŋli:-ha: w-jkammlu: jixdmu:-ha: minyudwi:ka laŋfi:ja tuxru:z  
について-それ W-終わらせる IMPF.PL 働く IMPF.PL-それを 翌日 夕方 出る IMPF.3SG.F  
tbi:ŋ w-tjiri: s'u:f zdi:da w-taqð'i: l-il-ŋja:  
売る IMPF.3SG.F W-買う IMPF.3SG.F 羊毛 新しい W-買い物する IMPF.3SG.F に-DEF-夕食  
w-hu:ma ŋa:jfi:n ŋla:-ha:k-l-mŋaddal

W-彼女たち 生きるAP について-その-DEF-調子

「彼女(母)は彼女たち(娘たち)とともに、羊毛の仕事をしている。彼女たちは羊毛を梳き、糸を紡ぎ、母は太糸と細糸を作り出す。母は市場に行って糸を売る。母は夕食のための買い物をし、羊毛を買う。彼女たちは夜に羊毛の仕事をし、仕事を終わらせる。その翌日の夕方、母は売りに出かけ、新しい羊毛を買い、夕食のための買い物をする。彼女たちはこうした具合に生活していた」

(逐語的な訳：彼女と彼女(娘)たちは羊毛の仕事をしている。《家での活動：[母と娘たち]羊毛を梳く。W-[彼女たちは]紡ぐ。W-[母]太糸と細糸を作り出す。》《市場への移動：[母]市場に行って糸を売る。》《市場での活動：[母]夕食のための買い物をする。W-[母]羊毛を買う。》《家での活動：[母と娘たち]夕食後羊毛の仕事をする。W-仕事を終わらせる。》《市場での活動：その翌日の夕方、[母]売りに出かける。W-[母]新しい羊毛を買う。W-[母]夕食のための買い物をする。》W-彼女たちはこうした具合に生活している) (I,p.9,1.7)

貧しい母と娘たちの暮らしぶりを描いた(9)の例では、w-によって行為の時間的継起が表されている(例えば糸を作る過程である「[母と娘たち]羊毛を梳く。W-[彼女たちは]紡ぐ。W-[母]太糸と細糸を作り出す。」)。しかしながら、一日の暮らしの行為の継起のすべてがw-で連結されているわけではない。すなわち「[母]市場に行って糸を売る」、「[母]夕食のための買い物をする」、「[母と娘たち]夕食後働く」、「その翌日の夕方、[母]売りに出かける」は、w-なしで始まっている。

そのため、w-の使用は恣意的に見えるが、逐語的訳の中の《 》で示したように、w-は、その行為が行われる場所という共通点で複数の行為をまとめ、ひとまとまりの事態として述べていることがわかる。なお、例文末尾に現れる「W-彼女たちはこうした具合に生活している」は、(8)で扱った場面の区切りとなるw-SVと同じ機能を果たしている。ただし、ここでは動詞ではなく現在分詞である。

- (10) hu:wa qʕad jitʕaʃʃa: w-hi:ja zibdit id-darbu:ka  
彼 座るPERF.3SG.M 夕食を食べるIMPF.3SG.M W-彼女 出すPERF.3SG.F DEF-太鼓
- w-bda:t tʃargaʃ fi:-ja:-li:l  
W-始めるPERF.3SG.F 高く歌うIMPF.3SG.F 中に-よ-夜
- 「彼が座って夕食を食べると、彼女が太鼓を出して「夜よ」と高く歌い始めた」 (I,p.14,1.11)

(10)は前掲の(8)の一部であり、SV w-SV w-Vとなっている。これは、前節で扱ったSV w-SV構文にさらにw-Vが加わったものであるが、ここでは、訳で「彼女が太鼓を出して「夜よ」と高く歌い始めた」としたように、(SV w-V)の部分がひとまとまりの事態として述べられていると考えることができる。

次の例は「複数の行為をまとめる」ことの性質について示唆を与えるものである。

- (11) a. qasʕit w-fasʕlit w-zahhzi:t  
切るPERF.3SG.F W-寸法を図るPERF.3SG.F W-結婚式の準備をするPERF.3SG.F  
「[彼女]布を切った。W-[彼女]寸法を図った。W-[彼女]結婚式の支度をした」 (I,p.13,1.3)
- b. qasʕit fasʕlit zahhzi:t (= (4)の後半部分)  
切るPERF.3SG.F 寸法を図るPERF.3SG.F 結婚式の準備をするPERF.3SG.F  
「[彼女]布を切った。[彼女]寸法を図った。[彼女]結婚式の支度をした」 (I,p.11,1.4)

(11a)と(11b)は、前者がw-で接続されている(3a)タイプ、後者が接続詞のない(3c)タイプである。どちらも、同じ行為の継起を表し、w-の有無のみ異なっている。意味の違いもないため、両者を比較すると、w-の使用は恣意的に見える。しかしながら、文脈を考慮すると、そうとは言い切れないことがわかる。すなわち、(11a)は(11b)の場面の繰り返しとして語られているものである(具体的には、母親である彼女は初めは長女、次は次女のために結婚の支度を繰り返すという話の流れである)。そのため、(11a)の3つの動詞は、先行する(11b)によって、語り手と聞き手にとってすでにひとつのまとまりとして捉えられているため、w-

によって接続されたと解釈できる。

このように w- によって作られるまとまりとは、行為自体の意味によって決まるというよりも、語り手がどのように場面を捉え、どのように伝えるかに応じて、ひとまとまりのものとして述べるか、そうでないか、を選択することによって形成されるものであると考えることができよう。

ここで、w- で接続される (3a) タイプと、接続詞のない (3c) タイプの違いについてまとめると、行為の時間的継起をもつばら表すのは (3c) タイプであるが、そのいっぽう、w- の (3a) のタイプの機能は、本質的には複数の行為をひとまとまりのものとして述べるものであり、行為の時間的継起は二次的なものであると考えられる。

この見方を補足する例として、時間的継起を表さない w-V の例を次に挙げる。

- (12) tirma:                      fi:-raqbt-um<sup>f</sup>m<sup>f</sup>-u:      jbu:s                      w-jʕanniq  
 飛びつく PERF.3SG.M      中-首-母-彼の      キスする IMPF.3SG.M      W-抱きつく IMPF.3SG.M

「彼は母親の首に飛びつき、キスをし、抱きついた」 (II, p.247, 1.14)

(12) では、「キスをする」行為と「抱きつく」行為がひとまとまりの行為として述べられ、そのことによって母と再会した彼の喜びが表現されており、この2つの行為の時間的順序には関心は向けられていない（また、次の (13) の末尾にも同様な例が見られる）。

次に (3b) の、接続詞のない (asyndetic) な V の連続の最後に w-V が現れる場合 (V V (V ...) w-V) について検討する。これは、単なる (3a) のヴァリエーションではなく、w-V はこれが表す行為が、先行する一連の行為の締めくくりとなることを述べる機能を持つ。その意味では、場面の区切りとなる w-SV と類似している。

- (13) jibdit                      mishit                      hakkit                      jallit                      ʕammrit  
 出す PERF.3SG.F      拭く PERF.3SG.F      擦る PERF.3SG.F      すすぐ PERF.3SG.F      満たす PERF.3SG.F  
 il-kwa:nin      w-ʕa:hit                      tsʕannif                      w-trajjif  
 DEF-かまど PL      W-取り掛かる PERF.3SG.F      料理をする IMPF.3SG.F      W-羽毛を抜く IMPF.3SG.F

「(隠された台所を見つけそこに何でも揃っているのを発見した) 彼女は (掃除道具を) 取り出した。拭き掃除をした。擦った。水で洗い流した。かまどを炭で満たした。そして料理の腕を振り始めた (lit. 料理をし、羽毛を抜き始めた)」 (I, p.14, 1.8)

(13) は掃除とかまどの準備の締めくくりとして、主人公が料理を始めたことが述べられている。「料理を作る」ということは、この物語では重要な意味を持つ行為であるが、主人公がそこまで最終的に到達したことが末尾の w-V によって示されている。なお、「料理をし、羽毛を抜く (tsʕannif w-trajjif)」は「料理の腕を振るう」を意味する慣用句 (I, p.70 の注 63) であるが、この tsʕannif w-trajjif は時間的順序ではなく、ひとまとまりの行為（「料理の腕を振るう」）を述べるものである。

次の (14) の例も (13) と同様に、末尾の w-V が、財宝を得るといふ旅の目的を果たした上での帰国という締めくくりの行為を表している。

- (14) ajja:      wsʕul                      l-ha:k-il-bla:d      ʕabba:                      mi-ð-ðhib                      w-il-ja:qu:t  
 きて      着く PERF.3SG.M      に-その-DEF-国      満たす PERF.3SG.M      から-DEF-金      W-DEF-宝石  
 .....      w-rawwah                      l-bla:d-u:  
 (中略)      W-帰る PERF.3SG.M      に-国-彼の

「きて、彼はその国 (財宝取り放題の国) に着いた。金と宝石でいっぱいにした。(中略) そして、彼は自分の国に帰った」 (II, p.244, 1.6)

いっぽう、(3a) の諸例 ( (9) (10) (11a) (12) ) にはこのような機能は見られない。それゆえ、チュニス方言では、(3b) は (3a) とは独立した機能をもつものと考えられる。

## 6. まとめ

本発表では、アラビア語チュニス方言の等位接続詞 w- 《〜と、そして》が語りにおいて持つ機能について、① w- と結合する動詞文の語順と② 出現環境という2つの観点から検討を行った。

動詞文の語順の観点からは、w-SV と w-V の2つのタイプを取り上げた。まず、w-SV では、「SV w-SV」と「時間を表す名詞 + w-SV」という2つの構文について記述を行った。さらに、場面の最後に現れ、場面の区切りとなる w-SV についても扱った。

次に w-V のタイプを2つに分けて記述した。ひとつは V w-V (w-V w-V ...) となる場合である。この場合では、w- は、複数の行為をひとまとまりの行為として述べる機能を持っている。いっぽう、w- によって接続されない行為の連続 (VVV) は時間的継起として行為を述べるものである。

もうひとつの w-V のタイプは w- によって接続されない V の連続の最後に w-V が現れるものである (VV V w-V)。この場合、w-V は、先行する一連の行為の締めくくりとなり、場面の区切りとなる w-SV と似た機能をもつ。

第3節で先行研究を検討したさいに w- の意味として「時間的な継起」と「追加」を挙げた。しかし、例の検討の結果、時間的な継起はむしろ w- によらない asyndetic な連続によって表され、w- は時間的な継起よりも、複数の行為をひとまとまりの行為として述べる機能を持つことがわかった。いっぽう、「追加」を時間関係を考慮するものではないと考えると、ここで述べた w- の機能と関連づけることもできる。

また、本発表では w- が語りにおいてもつ機能についても記述を行うことができた。複数の行為をひとまとまりの行為として述べる機能も、語りをわかりやすく整理するという点では重要である。また、場面の区切りとなる w-SV と締めくくりの w-V の例はいずれも語りの分節に関わる機能であり、w- が語りの構造化機能をもつ要素であることを示している。

本発表の成果は、w- が語りにおいて果たしている機能の一端を明らかにしたことにある。語りに関わる要素は、語り手と聞き手の関係や、語り手の判断の影響を受けやすいと考えられ、これが、w- の意味の文脈への依存度高さ (Ennaji 2009: 190) や、恣意的な出現に関わっていると見られる。本発表ではいくつかの例で解釈を試みたが、まだうまく解釈のできない例もある。

また、本発表では扱えなかった w- の用法も多く存在する。これら未解決の用法の記述を試みるのが今後の課題となろう。

## 参考文献

- Borg, Albert and Marie Azzopardi-Alexander (1997) *Maltese*. London/New York: Routledge.
- Ennaji, Moha. 2009. Sentence. In *Encyclopedia of Arabic language and linguistics* Vol. IV, 185-191. Leiden/Boston: Brill.
- Gibson, Maik 2009. Tunis Arabic. In *Encyclopedia of Arabic language and linguistics* Vol. IV, 563-571. Leiden/Boston: Brill.
- Holes, Clive (1995) *Modern Arabic: structures, functions, and varieties*. London/New York: Longman.
- 熊切拓 (2019) 「アラビア語チュニス方言において主題をもつ文の並列が意味するもの」『東京大学言語学論集』41, 155-179.
- 熊切拓 (2020) 「ある事態に先行する事態—アラビア語チュニス方言の起動動詞 bda: のアスペクト・モダリティ・談話にわたる用法—」『東京大学言語学論集』42, 151-167.
- Marçais, William and Abderrahmân Guïga (1958-1961) *Textes arabes de Takroûna II. Glossaire*. Paris: Bibliothèque de L'École des Langues Orientales Vivantes.
- Singer, H-R. 1984. *Grammatik der Arabischen Mundart der Medina von Tunis*. Berlin/New York: Walter de Gruyter.
- Versteegh, Kees, Mushira Eid, Alaa Elgibali, Manfred Woidich, and Andrzej Zaborski. (eds.) 2009. *Encyclopedia of Arabic language and linguistics* Vol. IV. Leiden/Boston: Brill.